

○昨今のエネルギー情勢の急変（OPEC、公害）でエネルギー供給の安定性ということの重大さが痛感される。これは日本だけでなく、世界的な情況——アメリカでさえ、ニクソンのエネルギー教書

○最近の電力供給は、景気の停滞で小康を保っているようだが、実は深刻だ。——四十六年着工予定の二千万KW中約半の七百万KWしか敷地問題で着工のメドが立たず、又供給予備力も二%と危機レベル。

○資源的に安定度が高く、又、立地環境上もすぐれて

いる原子力発電所の早急建設が、この基本的な
 解決になる。——配布資料にもあるように十年後
 三千万KW、十五年後六千万KW、二十年後
 一億二千万KW、という計画をたてたが、原子力の
 一層のスピードアップが必要。それにはいろいろ
 問題がある。

○まず立地の確保。百万坪級の沿岸立地、二十三十カ所を
 確保していかねばならない。火力より環境保全に
 有利ということも理解されてきたが、地元との
 話し合いも民間だけでは限界にきている。

(イ) 国土総合開発計画に則って、大規模敷地の
 先行取得についての国の助成。

(ロ) 政策的に、地元への具体的なフェイバーを与える。

—たとえば、原子力は、過疎地への単独立地になる点からも固定資産税の地域還元等
電気料金体系の問題など。

(ハ) 地域開発と共存共栄。温排水の養魚への利用等を推進するほか、将来は、原子炉の多目的利用（地域冷暖房、脱塩、化学工業への利用）を促進する。

(ニ) PRよりむしろ、安全性を科学的に立証すること
ここで国民の信頼を増すこと。このため発電施設の安全研究と、放射能安全機器の開発を誘導すること。

又、当面は危険ないとしても、放射性固体廃棄物の最終処分の方策を早く確立すること。

4
○次に核燃料

(イ) 濃縮。わが国の技術開発を促進することが緊要。
今年度からナショナルプロジェクトに。

最近、米佛などから技術供与の意向がもたらされておる、自分も政府から頼まれて、英、独佛を訪問、又、米AECの人の話をきいてくるつもりだがこの各国間共同計画に加わるためには、技術水準を早く引き上げることが先決。何十億円のプロジェクトに技術の評価も出来ないで参加できるわけがない。国際協力の可能性がでてきたからといって、開発をおくらせるなどは本末転倒である。

(ロ) 資源。現在はまだ買手市場だが、公害問題等から各国が原子力の開発を急ぐので、需要の硬化は必至だし、石油の教訓からも海外資源の開発を急ぐ。

5

各国政府、大企業（石油大企業も進出急）が大いに進出している。西独のように所要量の七割も海外で確保して、その輸出も考えているところもある。わが国は出遅れた。いままで六地点で二十億円（すべて民間）位使ったが、一カ所（ニジエール八千トンU₃O₈）しか成功の見込みが立っていない（二十年間の所要累計量は二十万トン）。これには情報の把握不足もあるが、企業探鉱への政府の「成功拂込融資」等を早くきめて推進してほしい。

○次に新型動力炉開発。これは核燃料問題を根本的に緩和する。わが国の開発速度は若干先進国との差がちぢまってきた感がある。計画通りの開発には予算の

確保とともに人員の確保が重要。

○最後に「予算枠」の問題。

毎年二十五%位の予算要求枠がきまつて、原子力も

(動力炉開発を除いて)この枠内で処理されている。

今年のような重要問題が山積しているときに、原子力

開発が国家的要請になっているときに、この枠に無理に

とじこめるなどは非常識。あの持つる国のアメリカで

さえ、ニクソンが(配布資料のように)エネルギー確保の

重大性を国民に訴えて、自ら先頭に立ってエネルギー

政策を推進している。

この重要時期に抜本的予算確保をはかられたい。

(以上)